

5)消費者ニーズにあったかすみそうの新しい栽培法

(宿根かすみそうの品質改善のための仕立て法・水分管理法および鮮度保持法)

花・野菜技術センター 研究部 花き第一科 花き第二科 土壌肥料科

1.試験のねらい

かすみそうは本道の主要な切花品目であり、夏から秋にかけて全国に出荷されている。しかし、輸送中の品質低下、「老け花」の多発などが指摘され、品質改善が求められている。また、用途に応じた長さやボリュームを備えたものが優先的に販売される時代となり、産地は消費者ニーズを把握し、出荷物に反映させなければならない。

本試験ではこのような課題を解決する方法として、コンパクトな切花を量産するための多茎仕立て法と排水不良な圃場で高品質な切花を作るための水分管理法を確立し、またそれぞれの栽培法に対応した鮮度保持法を検討した。

2.試験の方法

(1)多茎仕立て法の開発 (花き第一科)

適応品種、摘心回数、仕立て本数、2回目摘心節位について検討した。作型は6月植え雨よけ9月切りで行った。また、労働時間、市場性、経済性についても調査を実施した。

(2)栽培方式に応じた水分管理法の確立 (土壌肥料科)

現地(滝川市)とセンター内ハウスで、高畦(慣行)、隔離床および遮根シートを用いた栽培を行い、灌水抑制時期と生育、切花品質および日持ち性について検討した。品種は「プリストルフェアリー」を用いた。

(3)鮮度保持法に関する試験 (花き第二科)

(1)、(2)の試験で栽培したものを供試して保鮮剤、輸送温度などについて検討した。

3.試験の結果

(1)多茎仕立て法の開発

コンパクトな切花を量産するには、2回摘心を行い、8~12本仕立てる方法が適しており、摘心位置は1回目が5節目、2回目は各茎の11節目が適当であった。多茎仕立てにより採花期は慣行より10~20日遅くなり、採花期間は約1カ月となった。多茎栽培により総労働時間は若干増えるが、採花・調製労力が軽減された(表1)。また、多茎栽培は慣行より所得の変動が少なく、収益性が高いと考えられた(表2)。市場ではコンパクトなかすみそうの需要は大きく、計画的な出荷を望んでいる。

(2)栽培方式に応じた水分管理法の確立

排水不良な圃場については隔離床、遮根シートを用いた栽培が有効であり、開花枝展開期までの灌水によってボリュームの低下を抑え、日持ち性を向上させることができる。その場合、定植後は水を充分補給するためpF2.0程度を灌水開始点とし、1回の灌水量は5~10mmで調節する。開花枝展開期以降はpF3.0程度を灌水開始点とし、乾燥気味に管理する(図1)。

(3)鮮度保持に関する試験

多茎栽培した切花の日持ち性は慣行よりも良好で(図2)、かすみそう専用保鮮剤にしよ糖2.5%を加えた処理により「老け花」発生抑制効果は更に高まった。

隔離床または遮根シート栽培した切花は吸水能力が高く、日持ち性に優れていた(図3)。

4.栽培上の注意点

(1)隔離床、遮根シートの作床は生育の安定性や設置作業性を考慮し30cm位とする。

(2)排水不良な土壌の条件は土性：C~CL、有効土層：60cm以下、心土の緻密度：19mm以上、透水係数(有効土層)：10-4cm/s以下、気相率：15%未満、地下水位：60cm以上など、である。

(3)最適採花ステージ、保鮮剤最適処理濃度・処理時間は、産地において品種ごとに確認する。

表1 調製に要する時間
(雪ん子、平成11年)

処 理	平均調製時間 (秒/本)	同左比 (%)
慣 行	60.4	100
8本仕立て	37.2	62
12本仕立て	37.2	62

表2 経済性試算 (10a当たり)

	項目	慣行	8本仕立て	12本仕立て
収入	出荷本数	8,160	16,320	24,480
	単価	139	80	50
	販売額	1,134,240	1,305,600	1,224,000
支出	変動費	762,928	805,618	801,874
	固定費	133,948	133,948	133,948
	費用合計	896,876	939,566	935,822
所得	237,364	366,034	288,178	
所得率	20.9	28.0	23.5	

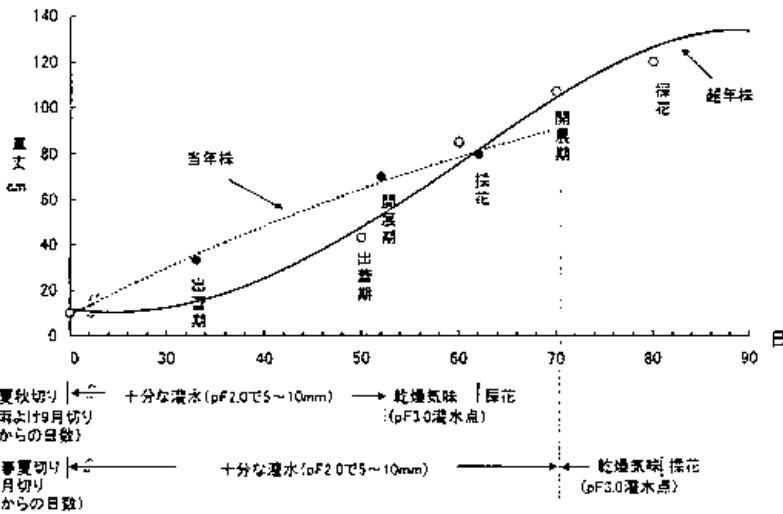


図1 隔離床、遮根シート利用による宿根かすみそう栽培の水管理法

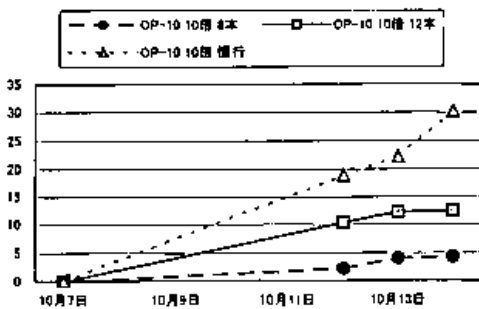


図2 仕立て法別老け花割合の推移 (頂花ユニット中%)

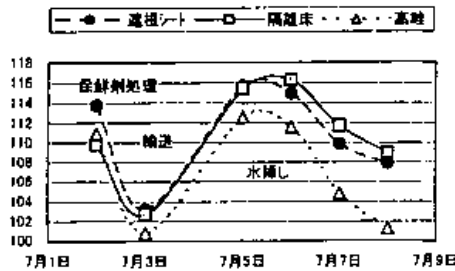


図3 水分管理法別重量変化 (採花時に対する割合%)

[用語解説]

《摘心 (てきしん)》

生長中の茎の先端を摘み取って、側枝を生長させる操作。枝数を増やし、生育を揃えるのが目的。

《隔離床 (かくりどこ)》

作物の栽培に使う箱状の容器。大きさは作物によってさまざまだが、根の伸びる範囲に限られるため、水分の管理がしやすいのが特徴。

《遮根シート (しゃこんしーと)》

化繊のシートで、水は若干通すが根は通さない。畦の下に敷きこんで、その上で作物を栽培すると、隔離床と同じように水分管理がしやすくなる。

《老け花 (ふいげばな)》

かすみそうは小さな花の集合体だが、すべての花が一斉に咲くのではなく、段階的に開花する。出荷に適した状態で収穫すると、先に咲いた花は枯れて茶色になっている。これを老け花という。出荷前に老け花を摘み取る労力が生産者の負担になっている。